

## 大阪国際ゲストハウス地域を創出する重要性と可能性を探るなかで

阪南大学国際観光学科松村研究室 ○代表 松村 嘉久

濱中 勝司・滝井 彩

ほか歴代ゼミ生一同

### 1. 活動の方針・目的

松村研究室は、教員とゼミ生が一体となり現場に参加して、現場で考え現場から学び、そこで活動する団体・当事者たちと関わるなかで、現場とともに成長することを活動方針として、協働・共有するフィールドワーク集団を目指している。活動の究極の目的は、大阪や日本の国際観光振興に向けた実効性ある方策を探るなかで、国際観光の現場で活躍できる人材を育成することにある。近年は、社会的にも空間的にも弱者を排除しない観光開発のあり方を模索しつつ、具体的には、フィールドワークを通して、西成区あいりん地区の簡易宿所（簡宿）街に大阪国際ゲストハウス地域を創出する重要性と可能性の実証に力を注いでいる。

### 2. 活動の内容

04年度は、OIGのパンフレットやHPの掲載情報や宣伝方法などで提案を行い、多言語化を受け持った。大阪市内の主な観光施設・鉄道ターミナル駅などの多言語化状況に関する調査も行い、大阪の国際観光をめぐる多言語化が余り進展していない事実を明らかにした。05年度は、Visit Osaka Campaign (VOC)の実現可能性とあいりん地区簡宿街の重要性を検証する目的で、大阪市内に立地する約800軒の宿泊施設の悉皆調査に取り組んだ。ラブホテル（250軒弱）や立地の悪いホテル・旅館（300軒強）は、外国人旅行者には不向きであり、外国人旅行者を受け入れる条件を実質的に備えているのは、立地が良く部屋数も多い150軒余りの宿泊施設であるという現状が明らかになった。宿泊施設の地理的な集積の度合いと宿泊価格の分析からは、激安宿泊施設（1泊800円から2,500円）が狭い地域に100軒弱も集積するという、あいりん地区の特性が確認されるとともに、従来の外国人旅行者とは全く競合しない新たな客層の利用が見込めると予測され、VOCの成功に向けて簡宿街の利用は欠かせないと指摘された。また、あいりん地区での合宿調査を通して、釜ヶ崎のまち再生フォーラム・おっちゃんガイド・NPO法人cocoroomなどとの交流が始まり、ゼミ生のインターンシップ派遣や紀州街道案内などで交流を深めている。

06年度は、外国人の個人自由旅行者の嗜好を意識しつつ、毎月最終土曜日に大阪市内各所のまち歩きコースを踏査してきた。同年夏には、OIG加盟簡宿の外国人旅行者を対象とした「大阪下町ツアー」を実験的に催して好評を得た。大阪のローカルな日常やささやかな非日常を楽しもうという趣旨のこのツアーの様子は、NHKのニュース番組でも紹介された。06年度秋からは、OIGの協力のもと、OIG加盟簡宿に宿泊する外国人旅行者の実態やニーズに関するアンケート調査と聞き取り調査を行った。主な結果は以下の通りである。

①個人自由旅行者がほぼ100%で長期滞在する傾向が強い。②簡宿街が新たな外国人旅行者の獲得に貢献している。③簡宿を拠点に京都や奈良などを日帰り観光する者が多い。④欧米系バックパッカーを中心に周遊型が少なからず存在する。聞き取り調査からは、国際航路を持つ大阪の強み、個性の強い外国人旅行者の存在、明確な旅程を決めず自由に旅するバックパッカーの生態などが明らかにされている。

### 3. 今後の課題

宿泊料金が安く滞在の長期化が見込める簡宿街は、大阪を拠点に京都・奈良などへ観光に行き、大阪のありふれた日常とやさやかな非日常を再発見する時間的・精神的余裕を持ち、大阪の持つ「場所の魅力」を自らの足で新たに発掘・発信する好奇心のある旅人を魅惑する。あいりん地区の簡宿は、徹底した食泊分離型施設であるので、国際ゲストハウス地域を形成する核となる可能性を秘めており、そこに集う外国人の個人自由旅行者たちの好奇心と行動力は、日本の国際観光の現状を根底から変革する可能性を秘めている。我々に残された最も重要な課題は、大阪やその周辺の「場所の魅力」を紹介する日帰りのモデルツアーを開発・検証して、その成果を印刷物にまとめて多言語発信することである。好奇心あふれるバックパッカーたちは、それを手に自らの足でまちへ出かけ楽しむであろう。第二の課題は、OIGほか釜ヶ崎のまちづくりを支援するNPOとの協働をさらに深め、「国際ゲストハウス地域」の創出に向けて求められる新たな空間編成や、観光・コミュニティビジネスの起業プランなどを探りつつ、より強化されたネットワークのなかで、協働・共有するフィールドワーク集団として、内外への動きかけを強めていくことにある。

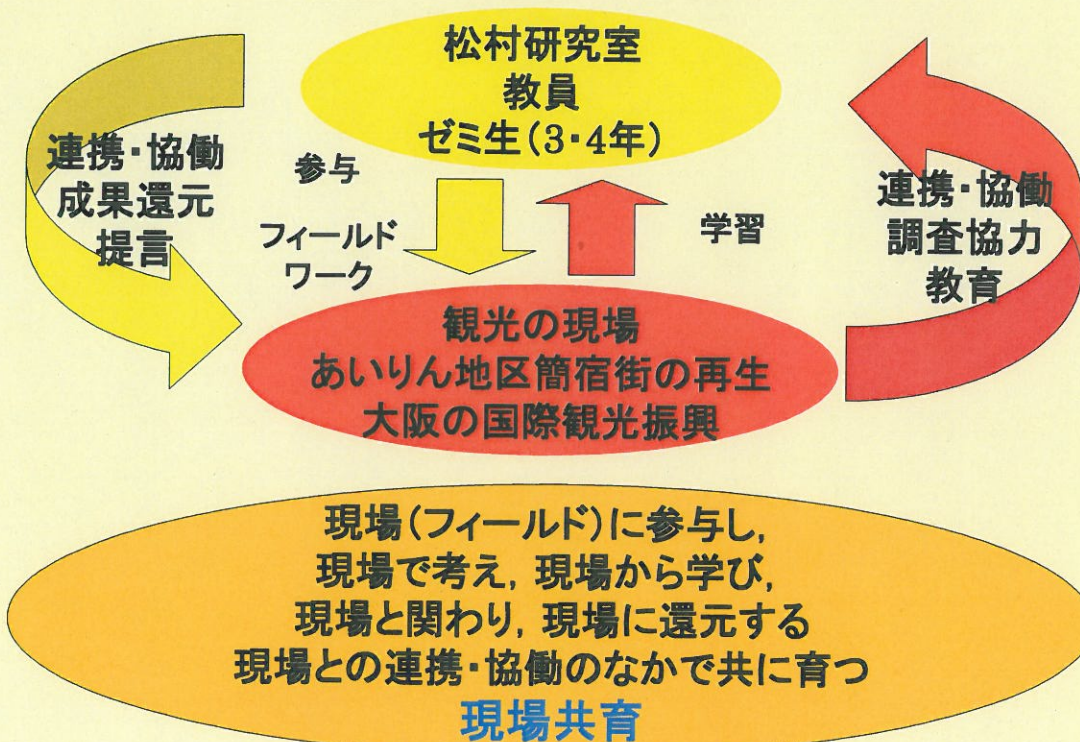
# 大阪国際ゲストハウス地域を創出する 重要性と可能性を探るなかで

阪南大学国際観光学科松村研究室

代表：松村嘉久

濱中勝司・滝井彩ほか歴代ゼミ生一同

## 松村研究室の活動方針



## 近年の活動(2004年度)

- 「大阪の安い宿」(OIG委員会)のパンフレット制作協力
  - 内容の提案と吟味
  - 多言語化(英・中・韓訳)
  - 国際観光学を学ぶ中国・韓国からの留学生の存在
- 大阪市内の多言語化状況の調査
  - 観光施設・鉄道的主要な駅・観光案内所
  - ゼミ生の卒業研究と連動して実践的な調査



## 宿泊施設の悉皆調査(05年度)

- 大阪市内の宿泊施設悉皆調査
    - ゼミ生総動員で約800軒を歩いて調査
- 報告書:『大阪の国際観光振興における釜ヶ崎・簡易宿所街の可能性と重要性』
- 釜ヶ崎簡宿での合宿調査
    - 釜ヶ崎の24時間観察, 地域で活躍する諸団体との連携
    - 国内客と競合しない格安宿泊施設が狭い地域に集積



## 新今宮界限でのフィールドワーク



## 大阪市内の街歩きコース調査 (05-06年度)

- 国際観光で利用可能な大阪市内の資源発掘と吟味：  
釜ヶ崎の簡易宿所街の可能性を広げる試み
    - 外国人の個人自由旅行者のまなざしを強く意識
    - 観に行く「京都・奈良」, サンドル履きで楽しむ「大阪」
    - 大阪の「ありふれた日常」と「ささやかな非日常」
      - 外国人にとって大阪のローカルな「日常」は「非日常」
      - 大阪のささやかな「非日常」は「カルチャーショック」
    - 留学生を含めたゼミ生たちの視点から国際観光資源としての可能性を検討
- ⇒大阪の「ありふれた日常」と「ささやかな非日常」を紹介する観光ガイドブック作成を目指して

## 街歩きコースの主な調査実績(06年)

- 2006年06月24日(土) 新世界・釜ヶ崎・飛田
  - 釜ヶ崎まち再生フォーラム, おっちゃんガイド, ホテル中央グループ, サポートィブハウス, OIG委員会, ジャンジャン横丁, 個別商店ほかとの交流を深め協働・連携を確認
- 2006年07月16日(日) 鶴橋・コリアタウン(NHK取材放送)
  - ホテル中央グループ宿泊の外国人旅行者で「**大阪下町ツアー**」:釜ヶ崎・簡易宿所街の可能性を検証
- 2006年10月22日(日) 住吉大社・堺・紀州街道
  - おっちゃんガイドへの返礼
- 2006年11月26日(日) 平野郷
  - 平野との新たな協働の始まり・西成区との縁:地図・パンフの多言語化

## 大阪下町ツアー (2006年07月16日)

- 大阪の「ありふれた日常」と「ささやかな非日常」の持つ魅力の検証
  - 「ありふれた日常」:市場, 路地, 長屋, 商店街, 大阪のおばちゃん...
  - 「ささやかな非日常」:縁日, だんじり, 夏祭り
- サンドル履きの大阪観光とそれを可能にする釜ヶ崎・簡宿街と個人自由旅行者の可能性



## 外国人旅行者の実態調査(06年)

- OIG委員会と協働で外国人旅行者対象のアンケート調査
- 釜ヶ崎・簡易宿所街の「可能性」をデータで裏付ける試み
  - 個人自由旅行者は日本・大阪に長期滞在する傾向
  - 大阪を拠点に京都や奈良へ
  - 外国人旅行者の誘致に貢献, リピーターも獲得
  - 世界・アジア周遊型のバックパッカーの存在, 国際航路の利用
- これまで日本に来なかったタイプの外国人旅行者が簡宿に



## 松村研究室の今後の課題



- OIGとの連携・協働で外国人個人自由旅行者が好み満足する大阪観光のプログラムの提案と検証: 「場所の魅力」
  - 「ありふれた日常」と「ささやかな非日常」を紹介する大阪ガイドブックの製作と多言語化
- 釜ヶ崎で活躍しているNPOとの連携・協働の強化
  - 新たな空間編成の模索とその創出に向けた働きかけ